

長島周辺海域のカンムリウミスズメとオオミスズメナギドリ

日本近海に分布し、暖海域で繁殖する唯一のウミスズメ類。総個体数は約5,000羽と推測され、世界のウミスズメ類の中でも最も絶滅が危惧される。抱卵期以外は常に陸から遠く離れた海上で生活するため確認が非常に難しい。非繁殖期（6月頃～翌年の1月頃）の生態は、ほとんど謎に包まれていた。2008年、長島周辺海域に一年中生息していることがわかり、その後の継続調査でヒナをつれた家族群なども発見。



いつもは寝せている冠毛をたてたところ



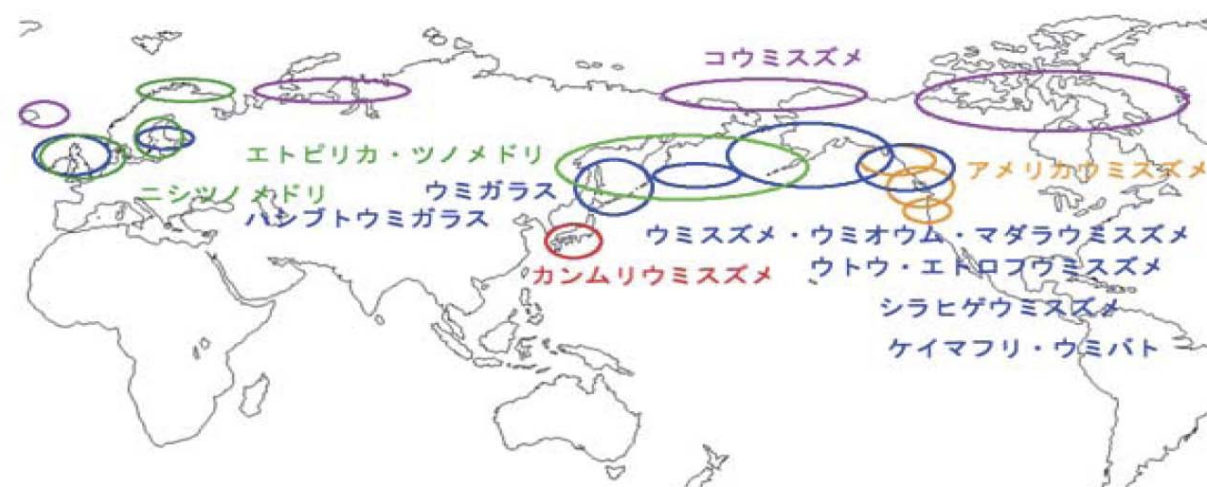
飛ぶように水中を泳ぐ



家族群



雛



世界のウミスズメ類 カンムリウミスズメは唯一温帯に生息する種である。



夏羽



冬羽

換羽期（繁殖期を終え、夏羽から冬羽に換わる夏季）は飛ぶことが難しくなるため、彼らにとっては豊富に餌があり、安心して生息できる海域としての長島周辺の海のもつ意味はきわめて大きい。長島周辺海域に生息するカンムリウミスズメの調査はまだ始まったばかりであり、毎年繁殖しない種類である可能性もあるため、繁殖については長期にわたり調べる必要がある。

和名 カンムリウミスズメ（冠海雀） 学名 *Synthliboramphus wumizusume* 全長約 24cm
国際自然保護連合（IUCN）の危急種． 国の天然記念物（種指定）． 絶滅危惧II類（環境省指定）． 絶滅危惧IA類（山口県指定）

2008年9月、日本鳥学会は総会で「本種は繁殖期・非繁殖期を通じて、この付近の海域を行動域の一部として利用している可能性があり、上関原子力発電所の建設後の稼働による温排水が本種に与える影響が懸念される」「発電所建設の影響評価にあたっては、まずカンムリウミスズメの繁殖状況および海域利用の現況を明確にすることが必要」と決議し、国・県・中国電力に対して要望している。